

Historians コメント集成 PART 4

番号	書名	読んだ人数	の総数	の平均
41	"きよのさん,, と歩く江戸六百里	5	16	3.2
42	武士の家計簿	13	50	3.8461538
43	明治の東京計画	17	60	3.5294118
44	英国人写真家の見た明治日本	13	47	3.6153846
45	新版大東京案内 上・下	14	50	3.5714286
46	小松崎茂昭和の東京	17	59	3.4705882
47	木村伊兵衛と土門拳	12	43	3.5833333
48	旅する巨人宮本常一と渋沢敬三	7	24	3.4285714
49	私の城下町 天守閣から見える戦後の日本	9	23	2.5555556
50	湿地転生の記 風景学の挑戦	10	38	3.8

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

"きよのさん" と歩く江戸六百里

著者名	金森敦子	発行年	2006年
出版社名	バジリコ株式会社	ページ数	338ページ
値段	1,800円	ISDN	978-4862380241

きよのさん無敵。大金持ちで太っ腹。ご一緒に日光・江戸、そして京都をめぐる贅沢三昧の旅にどうぞ。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ひいら	1-14、232-235	食べた料理の事細かな記録が秀逸。遊郭、買い物、関所抜け。芭蕉のような芸術性は無いけれど、自分の目で、足で歩いてきた、一人の女性の生きた記憶。
2008/02/19 04:10:01	16P (10分)	
	232-235	
弟子	1-100	当時の商人の娘はこんなにも金持ちだったのか。よく食い、よく遊び、よく買い、でもあまり歩かない。はじめのほうの解説に「女性の視点から見た遊女の感想など、時に女性だから見られる江戸のうんたらかんたら」とあったんですが、確かに遊女についてはコメントしていますがそれ以上に飯についてのコメントが多すぎてかすんでしまう。本当に食べるのが好きなんだなあと思わせる
2008/02/18 20:19:59	100P (30分)	

	25-28	迫力あり。
市戸瀬	101-178	よく歩くけど、それ以上によく食べるなあ、とか 買い物といい宿泊といい、道中のお金の使い方が豪勢だなあ、とか 遊女を女性が見るとこういう感想が出てくるんだなあ、とか 現代語訳だけ読んででもなかなか面白かった。
2008/01/30 13:13:56	78P (60分)	
	111-118ページ	特に興味深かったのが立ち読みポイントでもあげた「関所越え」 箱根の関所は簡単には通れないので、わざわざ通るのが簡単な関所のほ うに迂回する。幕府の関所にも抜け道があったんだなあ、いつの時代も 同じなのかな、とか思ったりした。
のだめ	65-100,139-178	清野さんは女性だそうです。途中で知りました。よく酒を飲みます、相 当な酒豪だったらしい。あと、よく食う。昼飯2回とか。確かに旅の醍 醐味の一つは「食」にあるとは思いますが、昼食2回はどうかと。
2008/01/17 16:39:02	84P (90分)	さて、時代は多少前後してしまうが、「武士の家計簿」と比較すると また興味深い。猪山家は借金地獄であったにもかかわらず、こちらは豪 勢な旅をしています。清野さんの生い立ちについては読んでいないので 細かく比較はできませんが。比較しつつ読むとまた違った面白さが伺え ます。
	75-78	
凱	65-117	う～ん、うまいものを食っちゃ、歌舞伎を見。 うまいものを食っちゃ、買い物し。 そしてまたうまいものを食う。
2007/12/13 22:16:41	53P (100分)	しかし、しっかり歩いているのでたぶんメタボにはならないと思われ る。
	75-76	皆さん、こんな旅どう思います？ (まず、学生さんには無理でしょうな。)

はじめました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

武士の家計簿

著者名	磯田道史	発行年	2003年
出版社名	新潮新書	ページ数	203ページ
値段	680円	ISDN	978-4106100055

埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
O'rei	55-159	家計簿からよくここまで武士の生活を描けたものだ。お金の支出から武士が何を大切にしていたかを知ることができた。無味乾燥と思われた家計簿からここまで生き生きとした武士像が浮かび上がってくるとは思わなかった。脱帽。
2008/02/09 14:08:37	104P (60分)	
ぺんね	3-218	武士を金銭面に注目して読み解く事も、現代の金融で換算し割り出す事も、なんかずれているようでおもしろい。おそらく古文書という基盤があったうえで切り口がおもしろいから立ち止まらずに読み進めたんだと思う。
2008/01/27 13:35:31	216P (130分)	
	88-90	
sala	1-203ページ	古文書に残された当時の武士の家計簿を、すべて現代におきかえて解読。

2008/01/19 20:54:49	203P (210分)	変に形式張った文書よりもこういうものの方が当時の様子を見る上ではリアリティーありますね。
	はしがき	楽しめました。
ハイパー・ワイパー	3-218	一般的に「古文書」と呼ばれているものの重要さがわかった気がした。当時は武士の家には基本的に家計簿などはなく、まさにどんぶり勘定だった！！
2008/01/18 18:00:16	216P (120分)	この本に出てくる猪山家は、たまたま幕府の経理をやったみたいで、だから家計簿をつけていたそう。
	3-6	一つの家計簿から、当時のことがここまでわかるのは、すごい！！
のだめ	13-103,127-176	金銭面から当時の生活を見ると、今まで持っていたイメージとはずいぶん違うものでした。特に当主の小遣いよりも使用人の方が多いというのは意外でした。前半第2章が面白い。
2008/01/16 17:04:20	139P (150分)	
	88-90	
紺	pp. 3-223	「金沢藩士猪山家文書」から、幕末をくぐり抜けた武士一家の生活と歴史を読み取った本。
2007/12/29 14:53:05	221P (200分)	前半、数字ばかりでやや退屈だが、武士よりも家来の小遣いの方が豊かだったり、女性の地位が意外に高かったりという事実には驚かされる。後半は9代目成之の成長を追うと同時に、大きく社会が動いた幕末期を猪山家がどう切り抜けていったかを描く。変わりゆく時代を乗り切るために必要なものは、今も昔もあまり変わらないのではないかと思わされた。
	pp. 88-90	
勉強だいすき	45-93,127-139	筆者は、例を見ないほど完全な姿で発見された家計簿を非常に丁寧に読み取ってこの本を書いた。あまりにも丁寧すぎて同じことの繰り返しが多い、という印象を受けた。しかし、筆者の編み出した換算術はおみごとである。現在の大工の自給から資産額を割り出すとは、ふつう思いつかないだろう。しかもそれが日本銀行金融研究所貨幣博物館と同じ算出方法だったとは・・・。筆者のまぎれもないセンスがここで見られる。
2007/12/20 23:26:02	62P (100分)	
	53-56	
凱	1-44,105-139	4歳の子供に大小二本の刀を与えるなんて・・・。
2007/12/20 08:02:46	79P (120分)	今そんなことをしたら・・・法律いっぱい改定しないと危ないかも。
	118の写真	だいぶこの本の本題と違うところに反応してしまった。
87	1-106 129-176	
2007/12/19 08:36:12	153P (240分)	「金沢藩士猪山家文書」という武家文書に残されていた家計簿から猪山家の生活を丸裸にする。当時のリアルな生活が想像できておもしろい。
	五章	
黒猫	15-176	何百年も前を実際に生きていた武士の経済状態が事細かにわかり、ものすごく興味深かった。(*・・*) 武士の年収を現在の価値に置き換えて説明しているのも、とてもわかりやすい。(*o´ `)o
2007/11/28 20:20:16	162P (100分)	それにしても、武士に対する見方が変わったなあ。(*° `°) 特権階級として悠々生きてるイメージだったが、「年収の2倍の借金」が常識で、しかも、階級によって利子が違うこの時代、藩士が一番高利に泣かされてたなんて・・・。(ノ´ `)
	49-60,123-126	今の時代に「年収の2倍の借金」背負ってたらお先真っ暗って感じだけど、江戸時代の人々はそれでもたくましく生きててすごいと思う。(´ ` `)
		123ページの子供の遺書には申し訳ないが吹いてしまった。(* m `)=3
謎の男	13-156ページ	
2007/11/24 00:09:36	144P (60分)	これ・・・なんか面白い。
	107-126ページ	武士とかがいた時代に関して、現代の目で見てるのが滑稽です。
ガリレイ	129-167ページ	
2007/11/14 21:33:38	39P (20分)	「お試し期間」！！ 要は摘み食いですな。この講義の趣旨とも合致！！
	132-139ページ	・・・妄想、もとい想像しすぎました。
hiromitu	1-203ページ	この本は、加賀藩に代々会計職として仕えていたある武士の一家が残した家計簿をもとに、その当時の中流武士がどのような生活をいとなんでんでいたかを研究した本だ。
2007/11/04 13:28:06	203P (180分)	また、江戸時代の経済がどのように成り立っていたのかなども書かれており、大変面白かった。例えば、武士は領地を藩主から与えられても、ただ証明書のようなものを渡されるだけで、実際そこに行くことはほとんどなく、年貢も別の役人が勝手に取り立てる。領地を与えられた武士は結局藩から給料をもらっているのと変わらないということなど、高校

どこでもOK

の日本史では習わないその当時の政治、経済システムが現実味をもってわかる。
内容もそれほど難しくなく読みやすい。
おすすめです。

[TOPへ](#)

はじめりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

明治の東京計画

著者名	藤森照信	発行年	1982年
出版社名	岩波現代文庫	ページ数	382ページ
値段	1,200円	ISDN	978-4006001339

「このまま崩れてしまうのだろうか」が冒頭のじつに印象深い一行。御一新で雑草だらけの田舎に帰するはずだった江戸を煉瓦の街へ、さらに「帝都」へと転生させた先駆者たち。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
むうみん	1-95	明治の都市計画を知るために充分すぎるくらい内容が濃いですね。時間があれば全部読んでみたいです。
2008/02/20 07:50:28	95P (100分) 71-78	
sya	pp.1-17, pp.390-422	ごめんなさい...文章のほうは途中で挫折しました。 中身は興味が持てても、文章を読む気になれなかったです。 んーまだまだ自分は未熟なのかな。
2008/02/20 00:34:41	50P (30分)	

	最後の図版	でも、最後の図版は興味深かったです。
キングジョー	1-95	ぎっしりの内容。論文とはいえデータの膨大さに、途中で挫折するしか道はなかった。。。
2008/02/19 21:49:01	95P (120分)	授業の通り、やはり最初の一文が衝撃！一気に飲み込まれると思ったのですが、無理でした。実際100ページ弱を読むのに1ヶ月かかりました。
	1ページ	
くら	全部	幾つかの本の内容が重なってきて、陳腐な言い方かもしれないけれど、ある時期、ある場所の多面的な世界像がだんだんとできてくる過程が、一時期にまとめて読む面白さにあるなと思いました。
2008/02/19 15:37:27	382P (600分)	藤森さんの研究に対する姿勢は、あとがきP.364の最初の段落で端的に述べられています（これは使えるなと思いました）。その姿勢が、抑制のきいた、けれどとてもダイナミックな文章を創り出していて、これがとても面白かったです。こつこつと読み進めました。
o	1-342,367-383,390-422	巻末の図版を眺めることから始めると夢が膨らむ。都市をモニュメンタルな形態にする計画案はとても華々しい。しかし、冒頭から読み進めると、計画案をまったく違った視点で見ることになる。計画は構想として描かれるのではなく、人間活動の重ね合わせとして描かれている。各人のかけた労力は計り知れなく、字面そのままの都市計画が、まだ政治の表舞台であったころのストーリーであると感じた。マンハッタンをキャラクターとして描いた、レム・コールハースの「錯乱のニューヨーク」が都市史における対照的な例として思い浮かんだ。
2008/02/19 15:16:29	389P (540分)	
	418-419 (官庁集中計画)	
弟子	361-434	最後の図版だけでも読む価値はあり、というかそこしか読んでないですゴメンナサイ。授業でも取り上げられたが、当時の人々の新都への意気込みが読みとらる。今考えるとかなり恥ずかしい計画を堂々と打ち出し、「やっちゃったなあ」と思ってしまうほど奇抜なネーミングセンスを披露してしまうあたりまさに。ただ、これを作っている人は本当に楽しかったんだろうなあという気持ちは伝わってきた。
2008/02/18 19:49:29	74P (20分)	図版の中で特に「地価等高線地図」というものがあり興味をそそられた。
	398-9	
テレスコープ	1、92-94、158-161、166-167、276、320-321	今でも東京というまちは魅力満載である。この東京が昔はどのようなまちで、どのようなエピソードがあったのか、などずっと気になっていた。全部は読みきることができなかったけれど、授業で紹介していただいて、きちんと全部読んでみたいと思った。本を紹介していただけたのはすごく有難かったです。
2008/02/17 13:31:29	13P (30分)	
フェンリル	1-56	内容が深く、とても学問的なお話。明治の時の都市計画はこのようにことに力を入れて、このような習慣からこうしていたのかととてもわかりやすく書いている本。本自体の魅力は薄く、とても教科書的な本であるということが残念。
2008/02/14 07:59:32	56P (120分)	もうすこし、裏話的なことなどが書いてあればまた違った印象の本になりそうな。
	35-40ぐらい	

うたたね	1-44ページ、110-195ページ	ずしっとした内容でも、読み進めようという気にさせられる本。
2008/02/12 16:51:26	130P (120分)	論文からその人の人間性がにじみでて、素敵なことだと思いました。
	1-44ページ	
きつとかつと	全部	すごい読みごたえのある本で全部読んでしまいました。帝国議会前のダイナミックさがすごい。芳川、田口、渋沢、井上、ベックマンら知事、思想家、新興商人、政治家、ドイツ人建築家までそれぞれが「江戸 東京」に抱いた夢がそのまま江戸に書き足す線となる。まばゆい夢が政治や予算という現実的な引っ張り合いで二転三転する中、意匠上の欧化から「殖産興業」へかじをきる大久保利通の判断の鋭さが個人的には印象に残る。井上馨の欧米かぶれっぷりもいい。
2008/02/10 18:55:34	422P (600分)	
	322	
m	1-96, 327-342, 386-422	いま私たちが住む東京は、どのようにしてできたのか？その始まりを描いた本。「このまま崩れていってしまうのだろうか」という言葉がふさわしい東京をなんとかしようと、様々な立場の人々がそれぞれの方法で夢を描き、多くが道半ばで散りつつも、一部が実を結び、それらの集積の結果としていまの東京がある。先人たちのまじめで熱い野望たちに乾杯。
2008/01/24 22:19:48	148P (120分)	
	1-	
ひいら	1-70、304-422	図版を眺めるだけでも読む価値あり。日本近代の草創期における東京計画が、どのようにして生まれてきたのかを紐解いていく。最初期の政府の計画は計画...というよりは個人の思いつきだったりしてその良くも悪くもフットワークの軽い思い切りのよさや突っ走り感がなんだか笑えてしまう。あとこれが博士論文なんだからすごい。
2008/01/24 02:48:40	189P (180分)	
	図版	
kazupi	277-342、361-383P	最後の図版を眺めるだけでも壮大な東京の都市計画を垣間見ることができる。
2007/12/20 17:47:17	89P (90分)	幕府から明治への移り変わる時に、江戸の町が突然東京になったわけではない。その裏には大胆な都市計画があり、その実践によって少しずつ首都東京が形成されていった。
	図版	夢に終わった計画の通りになっていたら今の東京、日本はどのようになっていたか想像すると楽しい。
大	1-79	1ページ目から読むと入りやすい。途中からは客観的事実のみで難しい。
2007/12/13 04:12:05	79P (100分)	
	1-2	今の都市計画と明治の都市計画の違いに着目して読むと面白いかも。
すらいむ	1-55 332-342 361-383	読めば読むほど味がしみ出るような本...だと思います。
2007/12/07 12:25:35	89P (60分)	昔の仮名遣いそのまま書いてあるところがあつたりして、中味は正直重たいですが。
	332-342	とりあえずまとめと後書きを読んでそれから中味へどうぞ。
凱	1-55,97-138	この本の面構えそのまんま、中身もぎっしりです。
2007/11/29 10:26:48	97P (200分)	お話として読む分には、ま、人それぞれの興味関心の問題ですな。正に濫読。好きなところだけ読んでいいのでは。
		学術書として読む場合は心して読む必要がありそうです。

39-43 & 51-55

なんせ東京の出発点を描いているのですから。

[修正](#) [削除](#)

まじょ

2007/11/08 20:53:52

今日、プリントでお配りした分だけではまだ伝えきれない気がして、掲示板に読書ノートをアップしてみました。ご興味のかたはどうぞ。

[TOP](#)へ

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

英国人写真家の見た明治日本

著者名	ハーバード・G・ポンティング	発行年	1988年
出版社名	講談社学術文庫	ページ数	312ページ
値段	1,100円	ISDN	978-4061597105

異文化の眼だから、そして写真家の眼だから、100年前の日本の姿をありありと映し出す。そのあたたかな視線がフジヤマのような「風景」だけでなく、ゲイシャのような「人」にまでしっかり届いているのがうれしい。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
大仏君	277 - 301ページ	鎌倉と江ノ島は東京近郊で古き日本の良さを感じられる良いところ。やはり、海と山があるのが日本の美しいまちの典型だと感じました。外国人のお客さんがいるときは必ず鎌倉につれて行きます。どの人も一様に喜んでくれたことを思い出しました。
2008/02/19 19:38:37	23P (15分)	
塩キャラメル	29-111, 157-191, 236-276,	日本、褒められまくり。一昔前の日本の日常が切り取られておりとても不思議。みんな、普通に和服を着て往来している……。もう見ることのない日本の姿にノスタルジーを感じました。
2008/02/19 11:09:52	159P (120分)	

	236-	特に「日本の婦人について」に芸者の生活の写真があって面白かった。
紺	pp. 3-23, 236-258	題名通り、写真満載の本。「英国人写真家の見た明治日本」とあるのでちょんまげの侍を想像していたら、明治末期の1910年に出版された本だった。
2008/02/18 20:58:04	44P (30分)	身近なところでいえば、夏目漱石の最盛期に重なる。ともすれば坊っちゃんや「先生」が出て来そうで、特に第八章「日本の婦人について」では『吾輩は猫である』の細君やおさんのやり取りを彷彿とさせられた。
	pp. 246-248	でも、一番いいのは表紙だと思う。ポンティングの愛犬かわいい。
大	1-80	写真が多く、読みやすかった。
2008/02/17 19:41:00	80P (30分)	日本人が撮った写真ではないのに、日本人の私もとても共感できる写真が多かった。
		写真は、ノーボーダーだと感じた。世界基準。
テレスコープ	1-300	文字ではなく、写真を中心にパラパラと眺めていました。
2008/02/17 13:42:11	300P (60分)	写真は撮っておくべきだ、そのときにしか写らないものがある、そのときにしか写せないものがある、と感じた作品でした。
hiromitu	1-330	写真を見て、写真にでてくる日本人の当時の暮らしを想像してみると、その人がどんな生涯を送り、どのような思いで日々の生活を送っていたのかが伝わってくる気がする。
2008/02/16 09:56:08	330P (60分)	
announ	1-300	ページ数と冊数を稼ごうと手に取った本だったが、写真が多くすぐに本の世界に引き込まれていった。
2008/02/07 19:08:14	300P (180分)	日本の有名処だけではなく、芸者、海女など、日本人の文化までもを写真で表現しているようであった。
きつとかつと	1-80	寺社や仏像等各部位に対する記述が非常に細かい。ここでは外国人というより一人の人間として芸術を見ているように読める。消失前の金閣寺の記述に「外国人は建物より美しい庭が目当て」とあって興味深い。再建後の今ではどうなのかな。
2008/02/05 18:49:18	80P (60分)	それから訳者さんがすばらしいと思います。
	39-80京都の寺	
ひいら	1-330	どこを切り取っても絵になる！そんな美しい時代の日本を写した写真の数々。山、川、森...街道を歩き交う人々までに染み渡る東洋の美。ああ、今の日本ってなんて汚いんだろうとってしまう本。流れるような訳もさることながら、一枚一枚の写真の美しさは本当に素晴らしい。
2008/01/24 02:58:11	330P (180分)	...それにしても、所々に出てくる傍若無人な外国人（主に筆者以外）の記述を見ていると、明治時代の西洋人は日本のことを、世界のことをこういう目で見ていたのかーと思うとなんだかやりきれない思いになります。千手観音の手を折って持っていくとかどういう神経してるんだろう。
	29-34、192-235	結局、白人世界、キリスト教世界の外の人間は、「物珍しい野蛮人」以上の何かではなかったんでしょね。もしかしたら今も？
87	1-38、156-191	写真が豊富でそれだけでも十分に楽しめた。
2008/01/21 16:19:06	38P (30分)	外国人からの視点なので新鮮味がある。
	156-162	日本人にこそ読んでほしい。
黒猫	18-323	文明開化したばかりの明治日本の様子を、写真で見れるのがとても素敵。(*o´ ` `)o 参詣する旅人や湖で遊ぶ子供、温泉につかるおじさん達...今の日本人にはない明治人の強さ、素朴さ、美しさをまざまざと感じました。(*´ ` `*) 特に立ち読みポイントにも挙げた『第八章 日本の婦人について』は美しいですよー。(*´ 艸`)
2007/12/23 14:58:34	306P (150分)	若干引っかかるのが、著者のナル&自己チューっぷり。(==;)自分は他の西欧人と違って日本のコトがわかってるー、という類いの主張が何度も出てくるし、その一方で、日本人に対しても上から目線な気がするんですよー。(ーへー;)特に『第五章 阿蘇山と浅間山』ではそれがもろに出てると思います。(*´ ` `*) 純粋な田舎者を、自分の写真を撮るという目的のためだけに危険

	所々の写真、236-276	に晒し、しかも、そのコトを責められると逆ギレする始末...。(;) 他が良かっただけにがっかりしました。(ノ -。) よって、- x2。
弟子	全部	日本フリークの西洋人が異国、日本について自分の旅行を通じた感想を交えて自慢話。はじめのうちはそう思っていた。 西洋人から見た日本について事細かに、時に自分の体験や感情を交えながら、日本の綺麗さ、美しさを書いた本。文章が翻訳されているので、読みなれていない人には不快感を与えるかもしれないが、それはご愛嬌。写真を撮ることを通じて、日本の美しいところを再認識させてくれます。ただ途中、なんか「自分は他の外国人とは違ってこんな日本の美しさを知っているんだぞ」と自慢げになるところも。
2007/11/28 02:29:56	330P (70分)	はじめ、この本はいわゆる「明治に異国を訪れた外国人」が「日本というもの珍しさに驚いて」書かれたのだと思った。実際、そういうところがいくつもあった。日本は、美しい、というよりも、ものめずらしい、と評価されているところが多々あった。だからはじめ自分は、この著者のことを、まあ外人さんなら仕方がないか、と思っていた。 でも、読んでいくにつれてその気持ちは変わっていった。近代の日本という、ある種独特の文化を客観的な写真を通じて見ていくに連れて、自分はどちらの立場に近いのか分からなくなった。今とは全く違った文化を持った日本人に近いのか、その日本人を見て驚きを隠せないでいる著者に近いのか、全く分からなくなった。
	192-235	最後に、読了の感想は「もし自分がこの時代にタイムスリップしたとしたならば、著者と変わらないことをするだろうな」であった。 なんだか、この時代の「日本」が自分の中には無かったのを意識させられて、さびしい気もした。
Who will I be?	1-17,29-38,236-276	
2007/11/22 14:59:02	68P (120分)	明治時代の日本を垣間見ることができる。 西洋人の視点なので、文化人類学的意味でも面白い。
	第8章 日本の婦人について	

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

新版大東京案内 上・下

著者名	今和次郎	発行年	年
出版社名	ちくま学芸文庫	ページ数	678ページ
値段	2,200円	ISDN	978-4480086716

考現学というひとつの学問をひとりで立てちゃったスゴい人がスゴい視線で昭和4年の東京をくまなく案内しつくす。フィールドワークのお手本満載。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ ()分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
つちのこ	上9-302 下19-366	読みやすい文章で東京の昔の様子に引き込まれた。 上野、銀座など写真を通して、随分暮らしぶりが変わったと思う。
2008/02/19 00:35:41	640P (240分)	
	上81-96 下250-256	

弟子	上11-192	地下鉄がまだ銀座線しかないころのお話。
2008/02/18 20:14:06	182P (50分)	途中にあった「作りかけの地下鉄」の話がお気に入り。「目黒から巣鴨」とか「池袋から東に」とか、今で言う都営三田線と営団丸の内線だ。それらの作りかけの状況が読んでいて非常に面白い。
	72-73	
大	上巻1-112	東京への作者の思い出を感じることができる作品。文章自体は読みにくい。
2008/02/17 20:24:15	112P (120分)	
黒猫	19-312	文章もウィットに富んでて面白いし、写真も当時の様子を垣間見えて楽しい。
2008/02/15 22:48:53	294P (170分)	
	270	p270には我らが東工大のコトがほんのおまけみたいにちょこっと載ってる。
紺	上 pp. 40-47, 97-105, 114-125, 171-173, 178-190, 221-229	建築家にして風俗研究家の今和次郎が、昭和初期の東京を克明な観察のもと記した本。
2008/02/14 09:03:53	44P (60分)	まだ新聞とラジオが情報の担い手だった時代。80年後の東京を知っているだけに面白く、1つの題に5ページから10ページまでしか割いていないので、まるでブログを読むような感覚で読めた。
	pp. 40-45	立ち読み箇所の「今日以後の東京」は結構当たっている。他の講義で習った都市経済学の実例を見る気がして、最も印象深かった。
Who will I be?	下1-125	節ごとにテーマが分かっているのだが、読者である我々は時代のコンテクストを持たない分、よほど好きなテーマの節でないと読みづらいかもしれない
2008/02/01 16:00:18	125P (120分)	
ひいら	(上) P1-P181、263-P304、(下) 1-340	何よりも文章のリズムがいい。歯切れのいい文体ですらすら読める。関東大震災以後太平洋戦争以前という、ある意味では忘れ去られた時代を生き生きと描いた記録。
2008/01/24 03:21:39	563P (120分)	風俗や生活や、読んでいけばいくほどああ今も昔も人の奥底って変わらないんだなと言う気持ちになってくるから不思議。
	(上) 25-43、81-104、(下) 263-274	当時の広告もそのまま載せているのがにくいですね。あと東工大の知名度の無さは既にこの時代から。
87	1 - 89、262 - 271	作者の東京に対する愛が感じられる作品。映像付きで見たいと感じた
2008/01/21 14:43:32	98P (120分)	
	33 - 39	

テレスコープ	上12-340、下19-378	面白かったので、通学時間を使って全部読んでしまいました。
2008/01/19 17:24:32	687P (360分)	
トーマス	1-149	この本では関東大震災後である昭和初期の東京の町並みや文化が紹介されている。これを読むことで太平洋戦争の空爆により破壊される前のモダンで整然とした今までに見たことがない新しい「東京」を発見できる。
2007/12/23 12:41:19	149P (120分)	
勉強だいすき	上 : 109-113,193-229,245-256,277-306 下 : 162-169,263-308	この本は、筆者独自の偏見でのみ語られている。いくら偉い人だといえ、もはや彼のいいたい放題である。特に、下巻の大学についてのお話、我々の東工大について語られていて、「そんな学校いつできたんだい」と、供述している。確かに私も知らないが、ほかの学校についてさえ大して知らないくせに、勝手にいうなよ。 また渋谷や新宿、銀座など知ってる町の偏った風景がわかるため、自分の視点と比較してみるとなおさら面白い。
2007/12/20 15:29:14	142P (150分)	
	上:287	
くら	上11-105、下225-259、367-378	細かい内容は読んでもらうとして、ここで紹介したいのは『今和次郎の視線』です。当時の東京の姿を、「過剰」に書くのではないし、「意味付け」をするわけでもなく、現実に見つめている先の『光景』として紹介してくれます。まさしく案内に徹しているという感じですが(ただし、観光客への案内という意味の案内ではないです)。 あと、本の中身についてはありませんが、文庫本の良さのひとつに『解説』があります。解説は高度な読み手との「読みの共有」ができます。ぜひ文庫本を読む際は『解説』を読んでみてください。
2007/11/27 21:04:27	139P (120分)	
ガリレイ	上60-80、109-157、171-187ページ	文章が素晴らしい。引き込まれる。
2007/11/25 17:02:21	87P (30分)	
きつとかつと	1-50	スクラップ&ビルドが原理原則の東京という街で、非東京育ちの僕が「歴史」を感じるのとはごくわずかな場

2007/11/05 19:35:20 50P (60分)

所だ。新宿の記述を見て、あの場所にも歴史があるという当たり前のことをつい実感した。

[TOPへ](#)

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

小松崎茂昭和の東京

著者名	根本圭助 編	発行年	2005年
出版社名	ちくま文庫	ページ数	205ページ
値段	1,000円	ISDN	978-4480420992

看板好きだったんですね。街並みを写しつつ、つい看板に目が行ったのは同業者意識か？ ていねいなデッサンに導かれての浅草や銀座のレトロ散歩。全編ほとんど絵。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
O'rei	全部	「技術の進歩により、地球上の距離はどんどん縮まった。しかし、人と人との距離は、逆にだんだん遠く離れていっている。」 印象的なフレーズだった。 この本に描かれている日本には落ち着いたよさがある。 今の日本はどうなんだろう。今の文化って漫画とアニメぐらいしか思い浮かばない。
2008/02/19 22:14:25	205P (30分)	

キングジョー	全部	絵がいっぱいで読書が苦手な私には助かったー。
2008/02/19 21:32:47	229P (20分)	180弱の東京の風景たち。。。ダイナミックなものから繊細なタッチのものまで、バラエティに富んだラインナップでとても楽しかったです。ただ、途中で飽きたけど(笑)
	13ページ上、月島上げ潮の絵	三丁目の夕日で昭和ブームが来たけど、その良さを伝えようとしたこんな本があったなんて・・・。
大仏君	全部	浅草と隅田川の橋には個人的によく見に行った場所なので、大変面白かった。
2008/02/19 17:30:29	205P (20分)	「技術の進歩により、地球上の距離はどんどん縮まった。しかし、人と人との距離は、逆にだんだん遠く離れていっている。」、「今の東京は、さながら美しい娘が大年増になって、ぶくぶく醜く太ってしまったように思われる。」など、なるほどと感心するフレーズが幾つかあった。この時代に東京を戻すことはできないから、これからの東京をどのような町にするかというビジョンを描く必要があると感じた。
	24 - 53ページ、130 - 144ページ	
くら	全部	ひっかかるところなく、ぱらぱらと眺めていたら終わってしまいました。描かれている題材は『昭和』であるにも関わらず、そこからは既存イメージとしての『昭和』のにおいを感じなかったのが不思議でした。
2008/02/19 15:29:05	205P (30分)	恐らく、あとがきに書かれていることが原因なのだと思います。小松崎さんはこれらのスケッチをある画家の背景に使うための資料として描いていたそうで、そのため邪魔にならず、かつ整った描写を心がけていたのだと推測されます。そして、その描き方が必然的に「におい」を消すため、昭和を身構えていた僕が不思議だと感じたのだと考えられます。題名の付け方がよくなかったのかなと思ってしまいます。
弟子	全部	変わるもの。変わらないもの。
2008/02/18 19:41:54	205P (20分)	これは昭和の遺産だな、と思って読んでいると自分の知っている橋があったり、ここは知ってるぞと思って読んでいるといきなりどこだかわからなくなったり。昭和という今は無きパラレルワールドをさまよっているような、そんな本。途中にあった「戦争で焼け残った」という表現が嫌いだ。
	138	
フェンリル	1-205	あっさりとしたコメントにメインは絵という！本と言うより図説では？という感じのすてきな本。確かにカラーであればなお良いかもしれないが、白黒でも十分に楽しめる良さがあり、また白黒でないと楽しめない良さもあります。
2008/02/14 08:16:44	205P (30分)	すてきな日本の世界をのぞいてみたい方、おすすめです。
	絵の部分	
ひいら	1-205	タミヤ模型のボックスアートや戦闘機や戦艦などの戦争絵、レトロフューチャーな近未来SF絵など、いろんな分野で有名な小松崎茂。どこかで見たことあるあの絵柄。
2008/01/24 03:17:07	205P (60分)	時代が同じなので、「新版大東京案内」と一緒に読むのも良いかもしれません。それにしても、全部カラーで見たかった！
	カラー口絵	ええなーと思った方はこちらもどうぞ。http://www.komatsuzaki.net/
紺	pp. 1-205	昭和10年代初めに描かれた東京の街頭スケッチ。
2008/01/22 23:10:14	205P (60分)	(銀座の和光がまだ時計屋さんだったころ！) 全く古びない画風に感嘆させられる。小説で読んだ戦前の浅草六区のにぎわいを直接見られた気分になった。
	pp. 145-160	浅草、隅田川、銀座、丸の内の4つの街を取り上げているので、自分の知っている街だけでも見てみると面白い。
Who will I be?	全部	
2008/01/09 14:35:35	205P (60分)	昭和好きにはたまらないです
	冒頭のカラー絵	
大	全部	自分が行ったことのある場所の昔の絵を見ると、歴史の流れを感じることができて面白い。
2007/12/13 04:19:22	205P (40分)	この本をガイドブックのようにして絵の場所をまわってみたら面白いかも。

	自分の知っているまちのページ	
トーマス	all	全体的に好みの絵ではあったが、カラーページの色合いが綺麗過ぎてほかのページが見劣りしてしまった事が少し残念。162pの「東京はただのゼネコンシティになってしまった」という言葉に反応してしまったのは私だけだろうか。
2007/12/12 01:11:46	205P (50分)	
	1-16 145-160	
市戸瀬	全ページ	殆どが絵で、文章は各章の始めに1ページ程度の短い解説があるだけなのだが、その行間から「昔は良かった」という呟きが聞こえてくるようだった。浅草、隅田川、銀座、丸の内・・・描かれている景色が今のそれとは違いすぎていて、時代の流れを感じさせた。注目すべきは巻頭のカラーの絵。
2007/12/07 23:21:52	205P (40分)	
	1-16ページ	
kazupi	1-205ページ	戦前の東京、浅草、隅田川、銀座などの様子が一連のスケッチによって広がっていく。今ではほとんどが失われてしまった風景を目にすると、なんだか時間の流れが緩やかになっていくようである。現在、東京駅の赤レンガ駅舎を3階建てに復元する事業が進んでいるが、当時のスケッチを見て完成が待ち遠しくなった。
2007/12/04 16:43:16	205P (30分)	
	全ページ	
sya	全て	飛ばし読みしすぎたのかなぁ、20分で読みきってしまった...。全体的に絵ばっかで、本嫌いの人が最初に読むのにはいいのかもしれないが、あまりに絵が多すぎて逆につまらないかも。絵自体はすばらしいのだが、時折書かれている文章は個人的にいまいちだった...
2007/11/22 00:13:45	205P (20分)	
	後ほど書きます	
凱	全部	P70の光の表現。 P102のむくり屋根。 P123の船たち。 P168の視点。 P213の大理石(ちっくな)エレベーター。 いい。
2007/11/19 09:01:11	205P (120分)	
	88ページ	
テニスする人	全205ページ	古き良き昭和の東京を前面に出した本。立ち読みポイントとして挙げたところは、橋の見える風景の絵のところだが、本の絵のような橋が現在あったらいいな、と本気で思った。現代で失われた東京の良さを、多くの絵を見ることで体感できる本です。
2007/11/13 10:23:59	205P (50分)	
	131-144ページ	
謎の男	全205ページ	現在とは違う町並みや風景は当然の事であるが、弱冠ではあるが時代の流行を感じ取れるものがあることがわかる。些細な部分に目をやると意外な発見があるので、是非読んでみてください。特にレトロ系が好きな人にはおススメです。
2007/11/11 11:56:50	205P (75分)	
	88 92ページ、145-148ページ	

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

木村伊兵衛と土門拳

著者名	三島靖	発行年	1995年
出版社名	平凡社ライブラリ	ページ数	323ページ
	—		
値段	1,400円	ISDN	978-4582764888

ふたり並べてみたのがいい。ひとりだったら神様のように平伏して拝むしかないけれど、超一流の、でも違うもの、時として対立すらしたものを右と左に並べて見比べることで、写真にこもっている魂の読み解き方が、少し分かってくる。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
むうみん	24-44,76-99	二人の写真が並べられることで、著者のいう「軽いカメラ」と「重いカメラ」の違いがなんとなくわかる。写真は土門の方が好きだが、撮り方は木村の方が好きです。
2008/02/20 08:22:03	45P (50分)	
	写真	

くら	全部	わかるようで、わからない文章でした。少し文章表現の技巧的なところで懲りすぎているかと思います。
2008/02/19 15:24:51	323P (360分)	木村伊兵衛と土門拳という2人の写真家を並べると、写真を撮るという行為に対するそれぞれの姿勢の対称的な様がそれだけでとても印象的である分、その対比に関する技術的なお話に終始してしまいがちと思うのです。けれど、その技術的な部分以外に、写真界と社会状況（社会運動や商業主義など）の関係も加えていくことで、「近代写真」の在り様（此处まで言うてしまうと言い過ぎかもしれないので、雰囲気のようなものと言えらると思います）が掴めてきます。
o	1-346（年表含む最後まで）	挿入されている写真をパラパラと眺めていることだけでもハッとさせてくれる良い本かと思います。
2008/02/19 15:06:37	346P (360分)	専門家は自分の職能の社会的な意味づけ（＝社会化）に苦悩する。「産業」に足場を持つ専門家はまだ良い気がする。社会化する手段として「組織の利益」や「技術の進歩」という言葉を用いることができるからだ。逆に、俗世とはかけ離れているアートに生きる芸術家達こそ、自らの活動の社会化に脅迫観念的に迫られる。土門拳はこの問題に正面から向かい合う。写真の中に、社会に対する「訴えかけ」を孕ませることで「写真を撮ること」を社会的に正当化しようとする。一方の木村伊兵衛はつかみどころがない。居合い抜きと評される「サッと撮ってサッと立ち去る」撮影スタイルは、「写真を撮ること」の正当化をサラリとかわすものかと思いきや、道楽の延長を意味する「旦那芸」との評判に憤慨する。好対照な2人を同時に描写することで浮かびあがるコントラストが、ヒーローモノのうんちくめいた表現の理解を少しだけ助けてくれた。
つちのこ	23-328	
2008/02/19 00:53:53	305P (30分)	写真の描く世界に引き込まれた。映像が読者に伝える影響力はすごい！広島原爆の悲劇がリアリティーに伝わる。白黒のモノクロ写真の世界に魅了された。おすすりです。
	192-214	
紺	pp. 7-74, 121-149, 175-214	日本を代表する二人の写真家、木村伊兵衛と土門拳。私自身写真を撮っていることもあって、引き込まれるように読めた。
2008/02/18 20:42:05	137P (120分)	坊っちゃん育ちでスマートな木村よりも、武骨で泥くさい土門の方に心をひかれる。写真集『ヒロシマ』について述べた第九章では、私がおの場にいたらシャッターを切ることができるだろうかと思させられた。
	pp. 201-203	制約があるのかもしれないが、文中で触れられている写真が載っていないのが残念。
ガリレイ	pp.8-18,pp.38-39,p.271	ほんとは写真全部見たんですけど、ページ書くの面倒ではしりました。
2008/02/17 17:16:28	14P (5分)	
	p217	p271の様な静かなところに行きたくなる、今日この頃。
謎の男	1-115ページ	
2008/02/16 13:22:59	115P (100分)	凄くわかりやすい。
	48ページ	写真にはまあ興味があるので面白かった。
フェンリル	1-47	
2008/02/14 08:03:02	47P (30分)	読みやすく、カメラが好きな人にはなかなか興味深い本。本に載っている写真もいいんですけど、写真に関する歴史が個人的には興味わいておもしろかった。
	写真	ひとことで言うと、不思議な人の考え方がわかる本と言うところでしょうか。
テニスする人	7 - 22ページ	
2008/02/12 00:01:16	16P (15分)	第1章だけ読みました。
	7 - 22ページ	写真に対する考え方がいろいろありましたが・・・好きな人は楽しく読める本だと思います。
ひいら	1-120、192-214	138頁のおばあちゃんが激えろい。
2008/02/04 06:11:12	138P (120分)	飄々とした木村伊兵衛と頑固一徹の土門拳。ほんわりした木村伊兵衛のライカと土門拳のバキバキニッコール。その性格の違いが、表紙にまでにじみ出てきて面白い。同じ時代を生きた二人の写真家の「まなざし」の違いを、

	P138のおばあちゃん	垣間見た気がする。
凱	7-35,57-90,137-167,187-233ページ	木村伊兵衛も土門拳も正直全然知らなかった。著者の三島靖は文章に哲学的な表現をふんだんに盛り込んでいて2、3回読み直さないと何言ってるのかわかんないところもあれば、鮮やかにイメージが脳裏に叩き込まれる表現もある。
2007/11/21 22:25:09	141P (220分)	彼らがどうこう言おうと、本書に掲載されている写真を覗いて自分だけの哲学にふけてみると自然と彼らの視線を先を垣間見ることができるかもしれない。
	215-218ページ	個人的には「この不幸を見よ」が・・・、
きつとかつと	1--352	木村伊兵衛賞に名の残る木村伊兵衛。「木村伊兵衛と土門拳」という題の割りに、読み初めに印象に残るのは、木村伊兵衛よりも土門拳の不器用さ無骨さ。ただ土門に焦点の当てた記述を読み進めるほどに、図と地を反転した対の絵として現れる木村伊兵衛の軽やかさが際立ってくる。そんな木村伊兵衛がパリを旅行者として訪れたとき、旅行者として写真をとることの困難が現れる。旅行して写真をパシャパシャとったことは誰にもあるはず。木村はそこで苦しんでいたのだ。
2007/11/12 19:45:14	352P (300分)	
	216-235 旅行者の視線	

[TOPへ](#)

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

旅する巨人宮本常一と渋沢敬三

著者名	佐野真一	発行年	1996年
出版社名	文藝春秋	ページ数	350ページ
値段	1,748円	ISDN	978-4163523101

民俗学という新しい学問を開いた人、そしてそれを支えた人。偉人なんかじゃない。ぶつかりながら、もがきながら、達成した傷だらけの記念碑。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
くら	全部	最後の章「長い道」を読み進める。P.348の2段落目『宮本が残したものは何か。・・・』という所に差し掛かった時、うわーっと、それまでの私が読んできた宮本常一の長かった道のりが迫ってきて、つまみ読みも良いけれど、じっくりと読むべき価値のある本だった。善十郎の十か条のメモに結構感動した。
2008/02/19 15:35:30	350P (480分)	
ひいら	1-26ページ	生い立ちについての記述を読みました。 ああ、こういう人はこういう環境で育つんだなーと。親って大事です。 あと24～25ページの旅をするに際しての親の教訓は必読かと。
2008/02/19 04:04:33	26P (10分)	
	1-26ページ	

謎の男	25-100ページ	民俗学って・・・難しい。
2008/02/16 13:17:50	76P (65分)	ストーリー一つ一つが何か重たくて深い。あまり好きではない感じだった。ただ、お金や恋愛など今の時代の考えに適応させられる部分もあるので・・・まあまあの作品かなと。
	45-48ページ	
テニスする人	7 - 10ページ	ぱらぱらと本を見ていて、残念ながら私には合わぬかと・・・
2008/02/13 02:50:40	3P (5分)	とても奥が深い感じな本っぽいので、お好きな人はどうぞ。
	無	
ハイパー・ワイハー	350-357	宮本は、ある野菜が植えられている畑を見ただけで、その集落の歴史や経済状態を言い当てたらしい。
2008/02/04 17:39:36	8P (10分)	これだけで、彼がいかに偉大な人物かが伺える。
	351	ちなみに、さかなクンはウロコを見ただけで魚の種類がわかるらしい。学者、恐るべし・・・。
すらいむ	1-349	渋沢の生き方を拾い読みしても面白いですね。お金という力をいかに使うか...これから自分がどんな立場に立つか分かりませんが、どこか心の隅に置いておきたいと思います。
2008/01/18 12:53:26	33P (10分)	
	106-138	
トーマス	7-105	男ならば女性関係の問題というのは常に悩みのひとつである。この偉人その例外ではないことを知り妙な親近感を覚えてしまった。というよりラブレター300枚以上ってもう変態の域なんじゃ・・・
2007/12/29 15:00:09	99P (80分)	
	93-105	

[TOPへ](#)

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

私の城下町 天守閣から見える戦後の日本

著者名	木下直之	発行年	2007年
出版社名	筑摩書房	ページ数	353ページ
値段	2,800円	ISDN	978-4480816535

過去の一大記念碑お城。古くさいなあ、と思いきや、現実の中にどすんと居座って現代と丁々発止斬り結んでい
る。あっちこっちの珍風景。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
ひいら	1-10	最初しか読んでないので内容についてはなんともいえないのですが...、 「幕府の御話をしまするに、 現今の言葉に改めて御話をいたすと、情の移らぬことがある。それ故、やはり公方様御機嫌能恐悦奉存候という調子で、御の字が付かぬと情が移

2008/02/19 16:34:55	20P (10分)		らぬようであります。」の言葉から、社会が移り変わる時代にあってなとなーくすわりの悪さを感じているお侍さんのイメージが浮かんできてなんだか滑稽で笑えてしまいました。今も昔も考えることは一緒か。
		1-20	
弟子		9-100	これを読みながら、途中の小田原に行くまでの間ずっとどこを歩いているのかを意識して読んだのですが、そのとき思った感想が「やっぱり山の手は狭いなあ」でした。
2008/02/18 20:28:39	92P (30分)		連載という形でしたので、初めて読んだときはいまいち理解できませんでしたが慣れれば慣れました。途中にはさんであるコラムもいい味出しています。個人的にブリジストンの話が面白かった。
		38-42	
謎の男		20-45ページ	どうやら城に関して書いてあるらしい(笑)
2008/02/16 13:14:13	26P (15分)		いつも読みすぎなので、今回はちょっとしか読まなかったのだが、城の写真、エピソードが詳細に述べられているので少し頭が良くなった気分。。。
		24-27ページ	
市戸瀬		342-362	首里城だけしか読んでないです。ほかのお城に興味がないわけではないのですが、やはり出身地のお城がどうしても気になるので。首里城について書かれた部分「琉球住民に贈らる」の冒頭に
2008/02/02 18:52:41	21P (20分)		2千円札についての文章がありました。2000年当時の沖縄でも、それほど流通していませんでした。みんな両替はしてみても一度は手にとって見るのですが、それを記念に取っておくんです。多分実家を探せば2～3枚は出てくるはず。
		342-349,357-362	立ち読みポイント2つめはあとがき。この最初の文章が笑えます。
紺		pp. 1-42, 65-71, 83-92, 103-106	江戸城をはじめとした日本各地のお城について、さまざまなエピソードからその姿を描き出す本。
2008/01/25 20:09:33	63P (40分)		連載に補遺を差し挟むという形になっているのでやや読みにくい。お城に興味がある人には面白いかもしれない。お城そのものにもあまり興味がない私には、ぱらぱらとめ

	65-71	くって気になった補遺だけ読むのがちょうど良かった。昭和天皇をパチンコで打とうとした奥崎謙三の話が一番興味深い。
hiromitu	1-268	自分が知っていて、なじみの深い城についての部分は楽しめるが、知りもしなかった城のことについての部分は退屈した。
2008/01/10 11:29:15	268P (120分)	立ち読みポイントの軍艦のところはだれにでも読みやすいと思う。
	211-226	
トーマス	27-126	復元された城を「ホンモノ」と呼ぶか「ニセモノ」と呼ぶかの議論が個人的にはかなり滑稽に思われたが、戦後の日本人にとっては城に展望台がつけられたことにより未来に向けての希望の塔になったことだろう。
2007/12/23 12:09:42	100P (120分)	
	110-113	
勉強だいすき	34-38,50-53,93-106,143-149,168-200,211-255,334-341,357-362	筆者は自分で足を運んだ建物や記念碑、見せ物について独特の視点で解説してくれる。歴史の人名が非常に多く出てくるため、歴史をやっていない人には読みにくいかもしれないが、最近に起こったことをふまえて書いているのでそれほど固い本ではない。しかし筆者の歴史に対する愛が伝わってくるので、読んでる側も遺跡に行きたくさせる。
2007/12/20 15:02:26	114P (170分)	読んでる側よりも、締め切りに攻められている筆者の方が大変そうなので、私は微笑ましい気持ちで読めました。
	245-	
kazupi	181-247ページ、336-362ページ	全国各地のお城を渡り歩き、お城の今昔から日本の近・現代史を語る。名古屋出身である私は真っ先に思い入れのある名古屋城の章を読んだ。地元や旅行で行ったことのある城の項目を拾い読みして知識を深めるのがお勧め。愛知県では名古屋城や清洲城についての項はあるが、数少ない現存天守であり、つい最近まで唯一の個人所有だった犬山城について触れられていないのが残念。
2007/11/14 14:08:25	94P (60分)	
	181-198ページ	

はじまりました!!

書物の奥深い世界へと新しい冒険。
合言葉は「濫読(らんどく)」、つまりわがまま読み。
まあたらしいページに最初の足跡を付けるのは誰?

図書一覧

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

湿地転生の記 風景学の挑戦

著者名	中村良夫	発行年	2007年
出版社名	岩波書店	ページ数	248ページ
値段	2,500円	ISDN	978-4000234320

「都市のこの記憶喪失ぶりはほとんど狂気といえる」 現状への憤懣をぶつけつつ、おのが実践の足跡を熱く語る。風景学の先駆者にして社会工学科の大先輩の言、心して聞くべし。

読者投稿欄

コメント登録	コメントだけを登録する
お勧め度	
読んだ場所	例：1-120ページ、上250-中50ページ
読んだページ数と時間	ページ () 分
立ち読みポイント	例：55-58ページ、下257-260ページ
コメント	

投稿者	読んだ場所	コメント
投稿時間	読んだページ数と時間	
お勧め度	立ち読みポイント	
むうみん	1-85	時間がなく挫折しましたが、ぜひ最後まで読んでみたいです。
2008/02/20 07:42:24	85P (200分)	読み物としてもおもしろかった。デザインの考え方もその場所の過去をじっくり振り返るあたりが参考になります。
	60-77	

くら	1-7、155-249	少し読みづらい文章の書き方だなと思いました。意図を文章それ自体で表現し過ぎというか。とりあえず、著者の計画思想が気になったので「わたしの方法」の章を読み、興味深かったので次の章も読むことにしました。
2008/02/19 15:32:30	100P (120分)	1つのプロジェクト(この言葉を使ったら怒られそうですが)を単に施工が終わるまでと捉えるのではなく、その後の関わり方に至るまでフォローし続ける姿勢は、筆者の計画思想と矛盾することなく好感が持てます。
紺	pp. 38-47, 69-77, 155-183, 225-237	私の家は谷戸を保存した公園のすぐ近くにある。一度滅んでしまった谷戸を公園として復元する過程を描いた本書は、だからまるで郷土史を読むように読むことができた。
2008/02/19 11:35:12	61P (70分)	だが、著者独自の思想をふんだんに盛り込んだ本書は、文章の巧みさもあいまってただの奮闘記には終わっていない。分野は違うけれども研究者を目指している私にとって、学問の面白さや頭でっかちになりそうな危うさを垣間見せてくれた一冊となった。
	p. 44	食わず嫌いしなくてよかったと思う。できれば空間設計の基礎を取る前に読んでおきたかった。
ひいら	1-7	「ふるさととは死んでしまったのだろうか」
2008/02/19 04:18:26	7P (10分)	否、というところから作品は始まる。それにしても、語られてゆく言葉のなんと美しいことか！
	1-7	上野駅から電車に乗って古河へと至る車窓の描写は、素朴でありながら洗練された美に包まれている。あー、いいなーと思える一冊。
謎の男	1-111ページ	一度失われた自然を復活させていくという、喜ばしい事なのか悲しい事なのか深く考えさせられる作品。
2008/02/16 13:11:12	110P (80分)	リアルな内容が書かれているので、非常に読みやすいし、容易に想像できる。都市計画などに興味ある方は是非。
	90-99ページ	
フェンリル	225-236	昔の思い出がなくなるのは寂しいことだけど、それをまた元通りにすること。
2008/02/14 08:06:56	12P (20分)	私は筆者の考えに賛同することができなかったため、あんまり良くなかったかな。しかし、昔のものがまたよみがえるということに焦点を当てるのではなく、計画的土地の改造として読むとなかなか興味深く、おもしろいです。

m	1-68	むかしの思い出の風景が壊れ去ったときの衝撃が、生々しく伝わってきた。たとえば自分が小学生の頃から住んでいる街にあるお寺たちが、全部高層ビルになったら・・・(ならないと思うけど)と想像してみると、なかなかおぞましかった。この衝撃を胸に本を閉じるのもまた一興。
2008/02/13 00:17:28	68P (50分)	
	34-35	
テニスする人	1 - 249ページ	沼を再生していく様子を追って体験しているような感覚が味わえます。文書もそんなに難しくないので一度読んでみるのも良いでしょう。社工の時空間のひとはぜひ。
2008/02/07 16:02:33	249P (200分)	
	113 - 154ページ	
sya	全て	関東北部の古河にある御所沼という沼を舞台にした沼再生のストーリー。文章が難しくなく、非常に読みやすい。第一章にかつての古河の街の様子が書かれているのだが、書かれた景色が目には浮かんで来て、この本の世界に引き込まれていく。そのまま一気に後の章も読んでいくことができた。また、単に沼再生の話だけを書くのではなく、筆者の景観に関する考え方も出ていて、それも興味深かった。あえて不満を言うとなると、第3章あたりの歴史的な話の部分が予備知識がないために難しかったが、それを踏まえてもお薦め度は星5つ！
2007/11/29 01:22:33	248P (240分)	
	p.131の10行目-p.132の10行目、 p.233の10行目-p.235の1行目	
pudeo	1-32ページ、 181-188ページ	素朴な語り調がすばらしい。読んでいる内にどんどん筆者の世界に引き込まれていく。自然と人間のつながりを景観から眺めることが興味深く、又ただ眺めているだけでなく、復元していく過程はワクワクしながら読み進められると思う。
2007/11/15 22:16:37	39P (20分)	
	181-183ページ	